

info DRIVE ジャマガジン

jama

Japan Automobile Manufacturers Association
日本自動車工業会 広報誌

JAMA vol.55-56
2021-22
[December-January]

12-1
月号



自工会・記者会見(11月18日) 次期新体制発表

インタビュー

知的財産部会 別所 弘和 部会長 (本田技研工業 知的財産・標準化統括部統括部長)

「CASEで知的財産権が重要に」

若手人材獲得の取り組み

「100年に一度の大変革期」に求められる人材とは



2021 第5回 「小学生クルマのある風景」 フォトコンテスト 01

自工会・記者会見(11月18日) 次期新体制発表 02

インタビュー 04

知的財産部会 別所 弘和 部会長 (本田技研工業 知的財産・標準化統括部統括部長) 「CASEで知的財産権が重要に」

若手人材獲得の取り組み 「100年に一度の大変革期」に求められる人材とは 07

第9回「バイク・ラブ・フォーラム」を開催 二輪車産業政策ロードマップ2030では、バイクならではの価値提供を通じて利便性と楽しさ、社会へ果たす責務として安全視点と環境視点を訴求 10

軽トラックは地域活性化に不可欠 元祖「しずくいし軽トラ市」に学ぶ活用事例 12

モータースポーツ総括 さまざまなカテゴリーで活躍する日本のメーカー&ドライバー 14

2022年1月主要自動車関連イベント 編集後記 16

記者の窓 『愛車の「ノート」』 共同通信社 別宮 裕智 17

- 1 自工会・記者会見(11月18日)次期新体制発表
- 2 若手人材獲得の取り組み 「100年に一度の大変革期」に求められる人材とは
- 3 軽トラックは地域活性化に不可欠 元祖「しずくいし軽トラ市」に学ぶ活用事例
- 4 モータースポーツ総括 さまざまなカテゴリーで活躍する日本のメーカー&ドライバー

●JAMAGAZINEは自工会WEBサイトからもご覧いただけます



www.jama.or.jp/lib/jamagazine/index.html

2021
第5回

小学生クルマのある風景
フォトコンテスト



ねえねえ見て見てっ！
古賀凜太郎 福岡県／1年生



ありがとうございます
滝脇郁花 富山県／4年生



窓をくく母ちゃん
渡邊豪 大阪府／2年生



乗せて
加治屋秀星 北海道／4年生



鏡
鹿沼茜里 群馬県／4年生

応募総数9779点から最優秀賞5点を選出

コロナ禍で一層、家族とクルマの関係が深まっています。経団連で組織する「経済広報センター」は、今年も小学生を対象に「クルマのある風景」フォトコンテストを実施。今回は過去最多の応募作品数の中から、最優秀賞5点、優秀賞10点、佳作10点の各賞が決定しました。発足以来、自工会が後援し、審査にも参加しています。

このコンテストは子供たちにクルマへの親しみや、魅力を感じてもらい、将来のモビリティ社会を支える若年層に「クルマ」への関心を高めてもらうために実施しています。

今回は「クルマのある風景」(自宅、街角で、旅先で撮ったクルマ、家族と一緒に撮ったクルマ、自然や風景の中で撮ったクルマなど、クルマが写っている写真)が応募テーマで、全国から合計9779点(応募者数2657名の作品がエントリー)され、学識経験者と報道関連の有識者からなる4名の委員が審査を行いました。

総評 今回は過去最多の応募があり、「コロナ禍で家族を被写体にした作品が多くみられました。最優秀賞に選ばれた5点は、いずれも小学生らしい斬新なアイデアや着眼点で、子どもたちが楽しげに、家族の中心にあるクルマと接していることを感じさせる作品でした(抜粋)。

※敬称略／五十音順



◀新体制では新たに副会長にホンダ、日産、スズキのトップが加わった



次期新体制発表

11月18日、自工会は記者会見を開き、次年度(2022年)正副会長の新体制を発表しました。会長は豊田章男が2年間任期を延長するほか、副会長は3人から5人に増員します。この新体制はカーボンニュートラルなど大変革を迫られる中、自動車産業はフルラインナップ(乗用車、商用車、軽自動車、二輪車)で立ち向かうことを意味しています。新たに日産自動車取締役代表執行役社長兼最高経営責任者の内田誠、本田技研工業取締役代表執行役社長の三部敏宏、スズキ代表取締役社長の鈴木俊宏が副会長に就きます。いすゞ自動車代表取締役社長の片山正則、ヤマハ発動機代表取締役社長の日高祥博は再任です。



▲「難局を乗り越えるためにお役に立てるならば」と会長続投を決めた豊田

現在、自動車業界はカーボンニュートラルをはじめ、CASE(コネクテッド、自動運転、シェアリング、電動化)など、大きな変革期を迎えています。これから大きな市場変化は避けられません。

これらの難題に対応するには「一社単独でできることには限界があり、みんなで協調しながら前に進んでいくことが大重要」という認識から、正副会長職はメーカーの垣根を超えた協力体制を敷きます。日本の自動車産業の特徴である「フルラインナップ」

の強みを引き出すため、各ジャンルのメーカートップが正副会長を務めます。

これまでの正副会長選出の手法である自工会会長職の持ち回り制や乗用車系主体の人选を根本から見直し、「それぞれの分野を最もよく知る方々にリーダーシップを発揮していただきたい」と実務に応じた副会長を配置。日本の自動車業界は、国内、海外に総力戦で立ち向かう陣容の構築を目指します。

当初、会長の豊田章男は会員各社からの続投要請に「最後まで悩みました」と躊躇したといいますが、ただ、「この難局を乗り越えるためにお役に立てるならば」と引き受けることを決めました。そして「自動車産業の未来のために、日本の未来のために、私自身も全力で取り組んで参ります」と改めて決意を述べました。

日本の自動車産業の強み「フルラインナップ」

▼「フルラインナップ」を日本の自動車産業の強みとしてCASEに挑む

乗用車

商用車

軽自動車

二輪車

● 副会長就任に際しての抱負（一部抜粋）

副会長

日高 祥博

ヤマハ発動機 代表取締役社長 社長執行役員

二輪車産業は、世界市場、約6,300万台の内、ジャパンプランドが約半数を占めているグローバルビジネスであり、自動車産業同様に世界でも競争力のある日本の産業のひとつです。これを維持し、更に直面している大きな課題に対しては、二輪車産業の仲間のもとより、自動車産業の仲間とともに取り組み、これからも人々の多様な移動ニーズにお応えし続けられるよう、全力で取り組んでまいります。

副会長

片山 正則

いすゞ自動車 代表取締役社長

大型車メーカー4社は、生活を支える社会インフラの一部であるトラックやバスという商品を通じて、安全や環境などの社会的責任をしっかりと果たしていくために、「圧倒的な当事者意識」と「社会課題解決に向けた協調」の意識を持って議論を重ねてまいりました。今後は新たな役員体制で、これまで以上に「オールジャパン」で力を合わせ、「更なる変革」を実現していく所存でございます。

次期副会長

三部 敏宏

本田技研工業 取締役代表執行役社長

カーボンニュートラルについては、各社・各領域の強みや研究・開発中の多様な技術・アプローチを総動員して対

応しなければなりません。まさに全方位、「フルラインナップ」を進めていくテーマであると考えております。自動車メーカー全社が主体者となり、それぞれの得意領域を活かしながら、2050年カーボンニュートラルという非常にチャレンジングな目標達成に向けて、スピード感を持って取り組んでいきます。

次期副会長

内田 誠

日産自動車 取締役代表執行役社長兼最高経営責任者

私たちを取り巻く事業環境は今、大きく変化しています。こうした時代においては、それぞれが引き続き、自身の力を磨くとともに、共通の課題となる部分については、会社の垣根を超えて、ともに立ち向かっていく、この姿勢が大変重要だと考えています。

次期副会長

鈴木 俊宏

スズキ 代表取締役社長

国民車である軽自動車は、人々の日々の暮らしを支えるだけでなく、ラストワンマイルを支えるモビリティとして、カーボンニュートラルへの貢献が期待されております。

カーボンニュートラルの実現に向かって車両だけでなく、インフラ整備も含めた提言と行動をおこすべく、自工会の皆さまと一丸となって取り組んで参りたいと思います。

※なお三部敏宏については、2022年1月1日より副会長に就任予定



知的財産部会

別所 弘和 部会長

本田技研工業
知的財産・標準化統括部統括部長

CASEで 知的財産権が重要に

CASE（コネクテッド、自動運転、シェアリング、電動化）に代表される産業構造の変化に伴い、自動車業界においても知的財産権の重要度が増えています。日本自動車工業会の知的財産部会では、日本の基幹産業である自動車に関連する知的財産権を尊重し、イノベーション活性につながる知財制度・環境の実現に向けて各国において適切な保護、利用が行われるよう国内外で活動をしています。知的財産部会の別所弘和部会長に現在の取り組みや課題などについて聞きました。

——知的財産部会の主な取り組みや特徴について教えてください

「グローバルな活動が多いです。特許は国ごとに法律が異なっていて、各国の団体などと協調していく必要があります。もちろん、国内の各自動車メーカーは知的財産に関してプロフェッショナルであり、各国の制度についても深く理解されています。自工会では、例えば日本にある良い制度を他の国に導入を促す活動も行っています。他の国とも連携を広げていくことで、自動車業界のイノベーションをグローバルに促すことができると考えています」

——主な取り組みについて教えてください

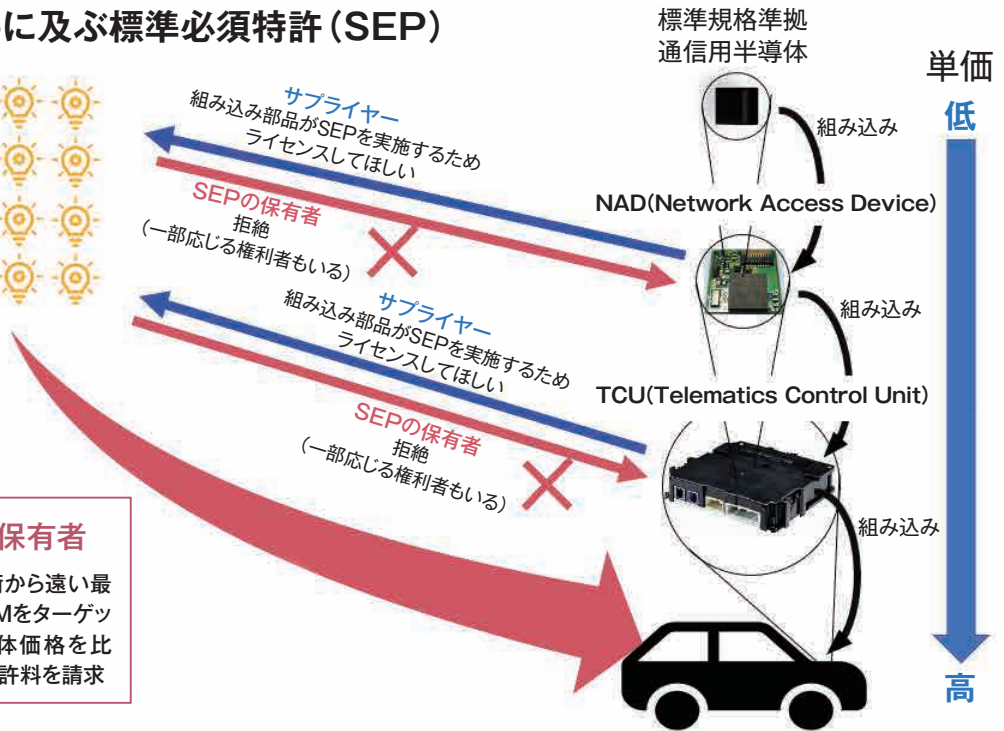
「主な活動としては、①標準必須特許（SEP）への対応、②意匠における公開繰り延べ制度の導入促進、③模倣品に対する対応の大きく3つとなります」

——SEP対応は何が問題になっているのですか

「SEPとは標準規格を製品・サービスで実施する際に必要な特許権を指します。携帯電話で通

SEP問題の構図

数万件に及ぶ標準必須特許 (SEP)



SEPの保有者

標準規格技術から遠い最終製品のOEMをターゲットにして、車体価格を比較に高額な特許料を請求



▲ 新興国特許庁審査官向け自動車技術説明会 (インド)

話す場合に基地局と基地局の間でシームレスに電波を切り替える技術がありますが、一例として、こうした技術がセルラー通信に関する標準規格の中に盛り込まれています。通信規格(4G)ではSEPが約2万件にも上ると言われています。CASE対応で自動車メーカーは標準規格を使いますが、それによってSEPの利用に関する問題も新たに生じています。例えば、SEP自体は自動車に搭載する半導体や部品が実施しているにも関わらず、一部のSEP保有者は最終製品となるクルマに対して訴訟を起こし、高額な特許料を請求するようなケースもあります。こうした問題に対してルール化して合理的に解決できるよう、政府とも協力して取り組んでいます」

— 意匠に関する課題とは

「クルマにとってデザインはとても重要です。意匠の権利を取得するために意匠出願すると登録後、デザインが自動的に公開されることとなりますが、これはクルマだともすこいインパクトがあります。日本では秘密意匠制度と



▲ 広州モーターショー模倣品対策展示ブース



▲ CAAM(中国汽車工業協会)との知財シンポジウム



▲ 新興国特許庁審査官向け自動車技術説明会(インドネシア)

いう名称の公開繰り延べ制度があり、権利設定後も一定期間意匠登録公報発行を繰り延べできます。中国でも昨年、日本に似た制度が導入されました。こうした制度はグローバルで導入して欲しいという声が多く、自工会としても各国に制度の導入を働きかけていきます」

「スベアパーツに対する意匠保護を制限する動きも問題です。修理や交換用に用いるバンパーやフェンダーなどの部品に対して、意匠権を侵害することなくオリジナルと同様の商品をサードパーティーが提供できるよう、意匠権の効力を制限する法改正の動きが欧州を中心に起きています。デザインが同一であっても、十分な機能や安全性を満たしていないケースもあり、補修部品であっても知的財産権として保護されるべきだと考えています」

——新興国を中心に模倣品の問題も顕在化しています

「模倣品に対しては、知的財産権を活用する対策のみならず、消費者側における意識向上を促す対策も重要なものと考えています。そこで知的財産部会では、中国IPG、JAPIA、中国外商企業協会(QBPC)等の加盟企業と共に、広州モーターショーで模倣品について消費者へ啓発するポスターや動画などの展示物を掲示したブースを設置する活動を行っています。また、特に新興国においては、模倣品に対して知的財産権の活用を円滑に行えるような環境整備も重要です。二輪分野においては、模倣品の拡散が懸念されている国・地域での活動、例えば、JETROや日本特許庁と連携しながら、フィリピン現地当局へ意匠制度の整備に向けた働きかけを行っています。さらに、FAMI(アジア二輪車産業連盟)における活動を通じ、ASEAN(東南アジア諸国連合)の模倣品問題に関し、各国における知財保護啓発活動・知財当局との連携といった各国二輪業界団体の知財活動を積極的に支援しています」



- ▲ 新たな取り組みとして初開催した「次世代モビリティキャンパス」(上)
- ▲ 若手エンジニアが自社の取り組みを例にモビリティの可能性を語りました(下)

日本において「若者のクルマ離れ」と言われる中、自工会ではさまざまな活動を行っており、将来の自動車産業を担う若手人材の確保も重要な取り組みの一つです。これまでの大学生や理系女子向けの取り組みに加えて、今年は新たなオンラインイベント「JAMA次世代モビリティキャンパス2021」を開催しました。CASE(コネクテッド、自動運転、シェアリング、電動化)やカーボンニュートラルへの対応など自動車産業を取り巻く環境が著しく変化するのに合わせて、求められる人材も変わりつつあります。

100年に一度の大変革期に 求められる人材とは

若手人材獲得の取り組み



100年前に起こったこと

人々の生活スタイルや街の景色が変わった！

1905年のニューヨーク



クルマの大量生産技術

1913年のニューヨーク



出典：U.S. National Archives and Records Administration HP、Wikimedia



日本自動車工業会 次世代モビリティ委員会 委員長
(トヨタ自動車株式会社 執行役員
コネクティッドカンパニープレジデント)

山本 圭司

今では想像すらできない移動手段が当たり前になります。

▲ 次世代モビリティ委員長の山本が自動車産業の現状をわかりやすく説明

モビリティ領域のソフトウェア最新技術

トヨタ自動車 次世代デジタルコックピット UX/UI統括担当
山田 薫

IT大手を経て2015年にトヨタへキャリア入社。車両ビッグデータ分析・サービス開発運用を担当。現在は次世代デジタルコックピットのUX/UIデザイン統括を担当。元来の専攻分野は言語学。

▲ 2つ目のパネルディスカッションはソフトウェアの最新事情について解説

これからの取り組みは若者のクルマ離れに向けた活動として継続していく一方で、近年の自動車産業では求められる人材も急速に変化しています。背景にあるのが、CASEやカーボンニュートラルと

いった自動車産業を取り巻く環境変化です。従来のものづくりを主軸とした製造業からの脱却や、電動化の推進など商品の転換が求められており、ITに強い人材が不可欠となるなど、従来とは異なる発想での人材確保が急務となっています。

その中で、新たな取り組みとして11月27日に「JAMA次世代モビリティキャンパス2021」をオンライン形式で開催しました。このイベントが従来と異なるのは、実際の就職活動に役立つ話を中心とした点で、幅広い分野の学生をターゲットに自動車業界の魅力を訴求しました。参加場所や学校を問わず全国の学生を対象に実施できたこともオンライン形式ならではといえます。

イベントではまず、最初に今後のモビリティの方向性やポイントについて次世代モビリティ委員長の山本圭司がわかりやすく解説しました。その後、現役社員が登壇する2つのテーマのパネルディスカッションを実施しました。

1つ目のパネルディスカッション

自工会では、若者の自動車産業に対する興味・関心を高めることを目的に、さまざまな活動を実施しています。自動車メーカーのトップ自らが自動車産業の魅力を語る「大学キャンパス出張授業」は2013年から毎年実施しており、これまでで累

計約3万人が参加しました。昨年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により実施できませんでしたが、今年は2年ぶりに開催しています。また、「Drive for the Future」は、理系女子を増やす試みとして15年に始まりました。中高生を対象に、自動車メーカーで活躍する現役の女性エンジニアがものづくりの魅力を訴求しています。

これらの取り組みは若者のクルマ離れに向けた活動として継続していく一方で、近年の自動車産業では求められる人材も急速に変化しています。背景にあるのが、CASEやカーボンニュートラルと

約3万人が参加しました。昨年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により実施できませんでしたが、今年は2年ぶりに開催しています。また、「Drive for the Future」は、理系女子を増やす試みとして15年に始まりました。中高生を対象に、自動車メーカーで活躍する現役の女性エンジニアがものづくりの魅力を訴求しています。

これらの取り組みは若者のクルマ離れに向けた活動として継続していく一方で、近年の自動車産業では求められる人材も急速に変化しています。背景にあるのが、CASEやカーボンニュートラルと



人財部会長 三並 亮二

「今回のイベントを企画しました」

「今回のイベントを企画しました」

「今回のイベントを企画しました」

自動車業界で活躍している 多様な『人』の魅力を伝えていきたい

「次世代モビリティキャンペーンの狙いを教えてください」

「人材採用の現場では大きな変化が起きています。情報や電気電子といった専門性の高い人材は不可欠です。ただ、競争が激しい分野なので、内定を出しても他の業種を選ばないか、会員各社共通の課題が見えてきました。このような人材を確保するには、自動車業界の魅力が訴求し、もつと関心を持ってもらうことが必要だと考え、今回のイベントを企画しました」

「パネルディスカッションを2つ用意しました」

「1つ目は、商用車・軽自動車・二輪車と、移動の概念を超えたプロジェクトを紹介したので、モビリティの幅の広がりを感じてもらったのではないかと思います。2つ目は、IT業界などモビリティ業界以外を志望する方にも知ってもらいたいと中途採用の方にも登壇いただきました。複数社で共通のテーマとしたので、将来のモビリティのワクワクした感じやその可能性の大きさ

「今後の課題について」

「自動車業界は多様性に富んでおり、色々な人材が求められます。今後は各社で活躍いただいている多様な人材を全面的に出すことで自動車産業の魅力をさらに訴求していきたいと考えています。取り組みの面白さだけでなく、こういう人が活躍している業界は面白いなと、『人』の魅力を伝えていきたいですね」

「イマ知らないとまずい?!モビリティ領域の『未来』では、日野自動車、いすゞ自動車、スズキ、ヤマハ発動機、カワサキモーターズから入社10年未満の若手や、異業種から転職してきた社員が参加。CASEEに関する会社の取り組みなどを紹介し、次

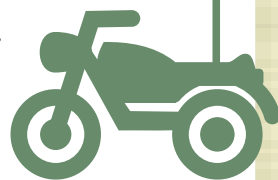
世代モビリティ開発の魅力を語りました。
2つ目の「イマ面白い。『ソフトウェアエンジニア』が語る、モビリティ領域」では、トヨタ自動車、ホンダ、三菱自動車、SUBARU、ダイハツ工業から、現在のソフトウェアエンジニアが

参加。IT大手企業からの転職者などバラエティに富んだメンバーで構成し、自動車産業におけるソフトウェア開発の最新動向や、モビリティのソフトウェア開発の楽しさを語りました。
LIVE配信では1000名を超える方にご覧いただいたほ

か、現在もアーカイブ配信を継続しております。参加した学生からは「自動車業界のポテンシャルを感じた」「モビリティへの理解が深まった」といった声が上がると、モビリティに対する関心の高さが窺える結果となりました。

二輪車産業政策ロードマップ2030では、
バイクならではの価値提供を通じて
利便性と楽しさ、
社会へ果たす責務として
安全視点と環境視点を訴求

経済産業省と自工会など業界8団体、地方公共団体6団体は11月22日、「第9回バイク・ラブ・フォーラム (BLF)」を開催し、2030年の国内二輪車市場を見据えた「二輪車産業政策ロードマップ2030」を公表しました。新車販売に留まらない、国内二輪車市場全体の活性化を目指します。



二輪車ならではの更なる進化を期待

ロードマップを通してさらなる価値を提供



経産省製造産業局自動車課 吉村 直泰 課長



副会長・二輪車委員長 日高 祥博

また、関連する趣味・娯楽との結びつきを深め様々な二輪車の楽しさを提供するとともに、手軽・快適・エコフレンドリーなパーソナルな生活の足としても二輪車の利便性も訴求します。

また、関連する趣味・娯楽との結びつきを深め様々な二輪車の楽しさを提供するとともに、手軽・快適・エコフレンドリーなパーソナルな生活の足としても二輪車の利便性も訴求します。

また、関連する趣味・娯楽との結びつきを深め様々な二輪車の楽しさを提供するとともに、手軽・快適・エコフレンドリーなパーソナルな生活の足としても二輪車の利便性も訴求します。

また、関連する趣味・娯楽との結びつきを深め様々な二輪車の楽しさを提供するとともに、手軽・快適・エコフレンドリーなパーソナルな生活の足としても二輪車の利便性も訴求します。

BLFの取り組みに関しては、BLF公式ホームページ(<https://www.bikeloveforum.jp>)にてご覧いただけます



▲コロナ禍を受けオンラインで開催しました



14年に公表したロードマップ2020からの継続課題に加え、環境変化を踏まえた新規課題を整理し、今回刷新しました。新たなロードマップでは、二輪車ならではの価値提供を通じ、人々の暮らしに『感動』を届け、日本経済・社会と二輪市場の発展・雇用維持に貢献」をビジョンに掲げました。

ロードマップでは、政府が示した「2050年カーボンニュートラル達成」に向け、電動バイクの普及や充電インフラ整備に加え、合成燃料対応車の開発など多様なパワートレインの可能性を追求していく考えとしました。

安全面の訴求とアフターサービスの充実も進めます。現状からの二輪車事故死者数半減や健全な中古車市場の育成を目的とした走行距離改ざん防止策の徹底なども進めていくとしました。

副会長の日高祥博は「コロナ禍でバイクは3密を避ける移動手段として有用性が見直されています。ロードマップを通してさらなる価値を提供できれば」と期待を込めました。

経産省製造産業局自動車課の吉村直泰課長は「二輪車ならではの価値を提供できるよつこの10年で更なる進化を期待したいです」と呼びかけました。

近年は若年層のバイク人気が高まっていることもあり、レンタル、シェアといった所有以外での利用方法もアピールしていく方針です。30年の目標としては、レンタル認知度70%としました。

社会基盤の構築にも取り組めます。30年目標としては、駐車違反件数の半減と料金所ETC利用率100%を目指します。

加えて、行政・関係団体等と連携した駐車場整備の推進や二輪車が安全に走行できるレーンの確保にも取り組みます。

副会長の日高祥博は「コロナ禍でバイクは3密を避ける移動手段として有用性が見直されています。ロードマップを通してさらなる価値を提供できれば」と期待を込めました。

経産省製造産業局自動車課の吉村直泰課長は「二輪車ならではの価値を提供できるよつこの10年で更なる進化を期待したいです」と呼びかけました。

近年は若年層のバイク人気が高まっていることもあり、レンタル、シェアといった所有以外での利用方法もアピールしていく方針です。30年の目標としては、レンタル認知度70%としました。

社会基盤の構築にも取り組めます。30年目標としては、駐車違反件数の半減と料金所ETC利用率100%を目指します。

加えて、行政・関係団体等と連携した駐車場整備の推進や二輪車が安全に走行できるレーンの確保にも取り組みます。

副会長の日高祥博は「コロナ禍でバイクは3密を避ける移動手段として有用性が見直されています。ロードマップを通してさらなる価値を提供できれば」と期待を込めました。

経産省製造産業局自動車課の吉村直泰課長は「二輪車ならではの価値を提供できるよつこの10年で更なる進化を期待したいです」と呼びかけました。

近年は若年層のバイク人気が高まっていることもあり、レンタル、シェアといった所有以外での利用方法もアピールしていく方針です。30年の目標としては、レンタル認知度70%としました。

社会基盤の構築にも取り組めます。30年目標としては、駐車違反件数の半減と料金所ETC利用率100%を目指します。

加えて、行政・関係団体等と連携した駐車場整備の推進や二輪車が安全に走行できるレーンの確保にも取り組みます。

副会長の日高祥博は「コロナ禍でバイクは3密を避ける移動手段として有用性が見直されています。ロードマップを通してさらなる価値を提供できれば」と期待を込めました。

経産省製造産業局自動車課の吉村直泰課長は「二輪車ならではの価値を提供できるよつこの10年で更なる進化を期待したいです」と呼びかけました。

近年は若年層のバイク人気が高まっていることもあり、レンタル、シェアといった所有以外での利用方法もアピールしていく方針です。30年の目標としては、レンタル認知度70%としました。

社会基盤の構築にも取り組めます。30年目標としては、駐車違反件数の半減と料金所ETC利用率100%を目指します。

加えて、行政・関係団体等と連携した駐車場整備の推進や二輪車が安全に走行できるレーンの確保にも取り組みます。

副会長の日高祥博は「コロナ禍でバイクは3密を避ける移動手段として有用性が見直されています。ロードマップを通してさらなる価値を提供できれば」と期待を込めました。

経産省製造産業局自動車課の吉村直泰課長は「二輪車ならではの価値を提供できるよつこの10年で更なる進化を期待したいです」と呼びかけました。

近年は若年層のバイク人気が高まっていることもあり、レンタル、シェアといった所有以外での利用方法もアピールしていく方針です。30年の目標としては、レンタル認知度70%としました。

社会基盤の構築にも取り組めます。30年目標としては、駐車違反件数の半減と料金所ETC利用率100%を目指します。

加えて、行政・関係団体等と連携した駐車場整備の推進や二輪車が安全に走行できるレーンの確保にも取り組みます。

副会長の日高祥博は「コロナ禍でバイクは3密を避ける移動手段として有用性が見直されています。ロードマップを通してさらなる価値を提供できれば」と期待を込めました。

軽トラックは地域活性化に不可欠

元祖

「しずくいし軽トラ市」に学ぶ活用事例

軽トラ市特設
サイトはこちら



岩手県雫石町の中心商店街「よしやれ通り」で11月7日「しずくいし軽トラ市」が開かれ、多くの人々で賑わいました。同町は軽トラックの荷台を使って野菜や海産物、工芸品などを販売する軽トラ市の発祥の地です。この「元祖 軽トラ市」を手本とした取り組みは全国に広まり、地域活性化に役立っています。自工会は全国の軽トラ市を応援するため、今回の軽トラ市を見学し、実行委員会との意見交換も行いました。

軽トラ市は観光資源にも

同町の軽トラ市は2005年7月に始まり、概ね5〜11月の毎月1回、年間7回程度開催されています。よしやれ通り約470mの県道を歩行者天国にして、午前9時〜午後1時の間、通りに並んだ50〜60台の軽貨物車両の露店が様々な商品を販売し、商店街の店舗も参加。毎回4000〜5000人が来場し、活気のある軽トラ市は観光資源にもなっています。

継続開催の条件に合致

事業のワークショップの中

も出店者の撤収作業の負担は

この軽トラ市は、同町が商店街や中心市街地の活気を取り戻そうと03年に中心市街地活性化基本計画を策定し、これを受けて雫石商工会が策定した「雫石町TMO（タウンマネジメントオーガニゼーション）構想」の事業から生まれています。

（しずくいし軽トラ市実行委員会）の相澤潤一委員長」ということです。その後、会場の県道に交通規



▲軽トラの荷台を売り場にして出店者の負担を軽減



▲集客効果の高い軽トラ市は観光資源となった



▲出店車両を軽貨物車両としたことが様々な年代層を誘引



▲食べ物関係の出店増が来場者の増加につながった



▲次世代モビリティ領域長の田中正実



▲軽自動車企画部会長の池原勉



▲相澤潤一「ずいずい軽トラ市実行委員会委員長

軽トラ市には笑顔があふれている

で、商店街の活性化策として、農家で軽トラックの荷台に朝採れ野菜を積み商店街まで売りに来てもらう案が出ました。商品は荷台にあるので売れ残つて

少なく、運営側も自分たちで場所を設営するわけではないので手間が少ない。「これは継続してやっていけるのではないかと考え出されたのが軽トラ市」

さらに、出店車両を「4ナンバーの軽貨物車両」としたこと

も成功要因の一つです。軽トラは車体がコンパクトで規格が同一のため、車両を並べやすく、お客さんとの距離が近いことが理由として考えられます。様々な出店者が参加し、商品も「4割強くらいは食べ物関係（同）となりました。また、フリーマーケットなども開かれ、幅広い年代の来場者が得られています。

軽トラ市特設ページを開設

軽トラ市そのもののPRや開催告知、集客のための企画案や好事例など他団体の情報を得る横連携のサポートを」との

「軽自動車企画部会長の池原勉）、「皆さん笑顔で売ったり買ったり、しゃべったりしている。そういった笑顔の量産を軽自動車を通じてやっている」（自工会次世代モビリティ領域長の田中正実）と軽トラ市が地域に貢

「軽自動車を活



▲特設サイトイメージ

モータースポーツ総括

さまざまなカテゴリーで活躍する

日本のメーカー&ドライバー

2021年のモータースポーツ活動が終了し、様々なカテゴリーで日本メーカーによるマシンや日本人ドライバーの活躍がありました。

F1世界選手権ではレッドブル・ホンダのM・フェルスタッペン選手がドライバー部門のチャンピオンを獲得

F1世界選手権ではレッドブル・ホンダのM・フェルスタッペン選手が最終戦、最終ラップでトップに立ちドライバー部門のチャンピオンを獲得する劇的な幕切れとなりました。ホンダのドライバーズ部門タイトルは91年のA・セナ（マクラーレン・ホンダ）以来となります。ホンダのF1活動は今シーズン限りとなりますが、次世代を見据えたホンダが今後どのようなカテゴリーで活躍していくのが注目されます。



世界耐久選手権（WEC）の常勝チームとなったトヨタ WEC活動をけん引した中嶋一貴選手が今シーズンをもって引退

世界耐久選手権（WEC）の常勝チームとなったトヨタ。今シーズンもドライバー&マニファクチャラーのダブルタイトルを獲得しました。シリーズに組み込まれているル・マン24時間レースも完勝しました。このWEC活動をけん引したといえる中嶋一貴選手が今シーズンをもって引退を発表しました。引退後もトヨタのモータースポーツ活動をけん引する役割を担うことが決まっています。



世界ラリー選手権（WRC）ではトヨタがドライバー&マニファクチャラータイトルを獲得

世界ラリー選手権（WRC）ではトヨタがドライバー&マニファクチャラータイトルを獲得しました。トヨタにとっては通算5回目のマニファクチャラータイトルとなりました。来シーズンのマシンはこれまでの「WRカー」からハイブリッドシステムを搭載する「R1カー」に世代交代されます。ハイブリッド技術の先駆者であるトヨタの新型マシンに注目が集まりそうです。



IMSAシリーズに参戦したマツダは、 シリーズ最終戦のプチルマン10時間レースで総合優勝

北米の耐久レース、IMSAシリーズに参戦するマツダは、シリーズ最終戦のプチルマン10時間レースで総合優勝を果たしました。今シーズンを最後にIMSA参戦プログラムの終了をアナウンスしているマツダにとって有終の美を飾る結果となりました。



スーパーGT、GT500クラスでauトヨタGRスーブラ、GT300クラスでSUBARU BRZ R&D SPORTがタイトルを獲得。星野一樹選手がスーパーGTからの引退。日産GT-Rが勇退

多くの国内メーカーが参戦するスーパーGTは、GT500クラスではauトヨタGRスーブラが、GT300クラスではSUBARU BRZ R&D SPORTがそれぞれタイトルを獲得しました。SUBARUは初のGT300クラスタイトル獲得となりました。また、19シーズンの長きにわたり活躍を続けた星野一樹選手がスーパーGTからの引退を表明しました。星野選手はGT300クラスで2度のクラスチャンピオンを獲得しています。マシンではGT500クラスで激戦を繰り広げた日産GT-Rが勇退し、来シーズンからは新型Zでの参戦が発表されました。



MotoGPでヤマハのF・クアルタラロ選手がタイトルを獲得、FIM世界耐久選手権（EWC）でスズキがシリーズチャンピオンを獲得、MotoGP界の“レジェンド”バレンティーノ・ロッシ選手が引退

オートバイの最高峰レース、MotoGPではヤマハのF・クアルタラロ選手がタイトルを獲得。ヤマハとしては2015年以来となる通算18回目のタイトル獲得です。また、オートバイの耐久レースであるFIM世界耐久選手権（EWC）ではスズキがシリーズチャンピオンを獲得しました。一方、MotoGP界のレジェンドバレンティーノ・ロッシ選手が引退を表明しました。ロッシ選手はホンダ、ヤマハ両メーカーのマシンでワールドチャンピオンを獲得するなど日本でも大人気のライダーでした。



2022年1月主要自動車関連イベント

 は四輪車レース

 は二輪車レース

国内イベント

日時	場所	名称
1月 14-16日	千葉県 幕張メッセ	TOKYO AUTO SALON 2022
15-16日	静岡県 ツインメッセ静岡 南館	ふじのくにキャンピングカー&アウトドアショー2022


海外イベント

日時	場所	名称
1月 5-8日	アメリカ ラスベガス・コンベンションセンター	CES 2022

国内モータースポーツ

日時	場所	名称
1月 30日	新潟県 ロッテアライリゾート	全日本スノーモビル選手権 第1戦

海外モータースポーツ

日時	場所	名称
1月 20-23日	モナコ モンテカルロ	 WRC 第1戦 ラリーモンテカルロ
28日	サウジアラビア ディルイーヤ	 Formula E 第1戦
29日	サウジアラビア ディルイーヤ	 Formula E 第2戦

編集後記

自分は四輪も二輪も大好きでよくドライブやツーリングに出かけます。二輪の免許は社会人になってから、旅先で同僚たちが職場で見せたこともないような表情で楽しそうに乗っているのを見て教習所に通いました。

クルマは家族でスキーやキャンプに、バイクは林道散歩やソロキャンの相棒とするため、いずれもオフロード用のものを乗り継いできました。

ファミリーステージの関係から、ここ10年ほどはバイクで長距離に出かけるのも年に1~2回と遠ざかっていましたが、子どもも少し手がかからなくなってきたので今夏バイク

を新調しました。いわゆる「(セミ)リターンライダー」です。

報道などでは聞きしていましたが、新車は納車3か月待ちの大盛況。これまで乗っていたバイクは17年前に30万円で購入したものでしたが、オークションサイトで28万円の値が付いて驚きました。もちろん、感染症拡大によるサプライチェーンの影響もあると思いますが、密を避けての移動やレジャーの手段としてパーソナルモビリティへの需要の高さ感じます。これを一時的なバブルとせず、「走る楽しさ」を友人、知人や若者の世代に語り継いでいきたいものですね。 S.O.

記者の窓



共同通信社

別宮 裕智

愛車の「ノート」

●父が自動車会社に勤めており、母も勤めていたため、幼い頃から車は身近な存在だったが、残念ながら私には運転の才能がなかった。優れたスポーツ選手の息子がスポーツで成功した例は少ない。自動車学校はマニュアル車のコースで通い始めたが、操作の複雑さに嫌気がさし途中でオートマチック車に変えた。嫌々通っていたら、揚げ句の果てに実技試験にも落ちた。いつそのこと自動車学校を中退しようかとも考えたが、無駄になるお金を考えてなんとか運転免許を取った。

●免許は身分証明に使い、運転はやめておこうと思っていたのだが、就職してそうもいけなくなった。記者は地方勤務があり、車がないと生活できない。心配した父は入社前に、日産の「ノート」にフルスペックの装備をつけて買ってくれた。ありとあらゆるところから飛び出すエアバッグ。駐車の際に頭上から車体の位置を確認できるモニター。雪道にも対応できるよう四駆にもした。入社まで実家の周辺で運転の練習を重ね

ただだが、私の運転技術を知っている近所の人達は、いつか事故が起きるのではと私の車を「デスノート」と呼び恐れていた。

●あとにも先にも事故を起こしたのは1回だけだ。初任地の島根県で県警本部の駐車場から出る時に、前を横切る車のリアに当たってしまった。現場が目の前なので、警察もすぐやってきた。9:1で私が悪いということになり9万円払った。その後は福岡、東京と異動したので、車は不要に。ノートは今、実家の横浜で眠りながら、高い駐車場代を喰い潰している。今年に入って売ろうと思いついたのだが、240万円だったのが35万円まで落ちており、売るのはもったいない気がしてきたのだ。かといって東京で運転するのも怖いので、一年半後に再び地方に異動するまで眠らせることにした。

●いつからか私はノートを自分に重ねるようになった。アメリカ生まれ横浜育ち。「裕智」という名前は父の名を下にもらい、父を超えるようにとの願いが込められた。教育熱心

な母は中学受験に力を入れ、大学までエスカレーター式のお坊ちゃん学校に合格した。陸上競技に打ち込み俳優養成所に通わせてもらい青春を謳歌した。苦勞も知らず言わばフルスペックで社会に送り出されたはずだった。だが就職してからは鳴かず飛ばず、順風満帆な人生が一変。わずか5年でつらいことが山ほどあり、社会の厳しさが身に染みて、家に帰ると涙がちよちよ切れる。そもそも私は運転どころか、自分が記者に向いていると思ったことが一度もない。報連相を怠り、仕事の交通事故をしょっちゅう起こしている。運転手の私は意識不明の重体に陥りながら、何度も緊急事態宣言を発令した。その度に転職が頭をよぎるが、私も35万円程度にしかならないだろう。

●今年、日産はノートの上級モデル「ノートオーラ」を発売した。私の5年も前のモデルよりずっとカッコ良い。だが私は、今はまだ眠っている愛車のノートと一緒に記者生活を走り抜こうと思う。

JAMAGAZINE読者アンケート

ご回答いただいた
方の中から抽選で

100
名様

Amazonギフト券
3,000円を
プレゼント!

JAMAGAZINEではより良い誌面づくりや情報発信を目的に、読者の皆さまを対象に簡単なアンケートを実施いたします。

アンケートへの
ご回答はこちらから



WEB

<https://forms.gle/DDP8x3h1hoWQDX2e6>

またはQRコードよりご覧いただけます